

# いちげ 一夏会報

No.71



令和4年11月1日  
発行：鶴見大学

〒230-8501 横浜市鶴見区鶴見2-1-3  
TEL.045-574-8623(ダイヤルイン)  
<https://www.tsurumi-u.ac.jp>



鶴見大学 副学長  
早川 徹

## 「鶴見と沖縄」

この会報がお手元に届くころには、暑さもおさまって過ごしやすいい日々となっていることと思います。二ヶ月にわたる司書・司書補講習、お疲れ様でした。新型コロナウイルスに連日の猛暑、それに台風もきました。このような状況の中での講習に励まれ、無事終了されたことをお喜び申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の拡大は収まる気配もなく、この夏は我が国が世界で最も感染者数が多い国となつてしまいました。二〇一九年に新型コロナウイルス感染症が発生してから我々の生活は一変しました。この夏の感染はいつの間にか「第七波」と言われています。一体第何波まで続くのか、と言うのが正直な気持ちです。司書・司書補講習では、十

分な感染対策を施して対面授業を行いました。すべての授業を対面で行うことはかなわず、一部はオンラインデマンド方式になりました。オンラインデマンド方式は如何だったでしょうか？昨年指摘された問題点を改善して臨みましたが、皆様のご意見を参考にさらに改善していきたいと思っています。

さて、話は代わりますが、NHKの朝の連続テレビ小説、いわゆる朝ドラ、はご覧になつていますか？講習と重なり視聴することは難しかったかも知れませんが、そういう私も通勤の関係でリアルタイムでは見ておりません。今期の朝ドラは、鶴見が舞台でした。今回の朝ドラを契機に鶴見を盛り上げようと、横浜・鶴見沖縄県人会、地元商店街や自治会、

大学、鶴見で活躍しているNPO法人、企業及び鶴見区役所が連携して「ちむどん」横濱鶴見プロジェクトが発足しました。鶴見大学もプロジェクトメンバーとして協力しており、私も実行委員の一人として参画しております。鶴見と沖縄の関係？意外に思われる方もいるかも知れません。実は私も鶴見と沖縄に深い関係があるとは、

今回このプロジェクトに参加するまでは知りませんでした。『横濱・鶴見沖縄県人会史』によると、明治三〇年代ごろ沖縄から国内外へ渡る人々が鶴見に来たのが始めだそうです。鶴見では大正初期から昭和初期にかけて、埋め立て工事や大企業の進出が進んで沖縄からの労働者が急増して定住するようになり、沖縄

コミュニティができました。さらに、一九九〇年の入国管理法の改正により、日系人に就労の制限のないビザが発給されるようになります。横濱鶴見にある沖縄コミュニティを頼って、鶴見に移住する日系人（主に沖縄から南米に渡った日系2世、3世）が増加してきました。そして、沖縄以外にブラジルやペルーなどの南米出身の人々をはじめ、中国、韓国、朝鮮、ベトナム、フィリピン、ネパールなど、現在では様々な国籍のコミュニティが混在しています。鶴見区では、二〇〇八年には「鶴見区多文化共生のまちづくり宣言」を発表しました。鶴見区民の三〇人に一人は外国籍の方で、国の数も八〇を超えているそうです。

鶴見に沖縄タウン、リトル沖縄があると聞くと、横浜の中華街の様なものイメージするかも知れませんが、鶴見の場合、沖縄料理や南米料理のお店が、一か所に局在しているのではなく、広く点在しています。沖縄文化を始め、それこそ多文化が街の中に溶け込んでいるのです。お時間があるときに、是非一度足を運んでみて下さい。沖縄や南米関連の食材や雑貨の販売店もあります。多文化共生を肌で感じて頂ければと思います。

最後になりますが、皆様方がこの司書・司書補講習で培った知識や技能を生かして、今後ご活躍されることを祈念しております。くれぐれもご健康にはお気を付けてください。

鶴見に沖縄タウン、リトル

# 国際図書館連盟の活動と図書館紹介

(トリニティカレッジ・ダブリン旧図書館 那須塩原市立図書館みるる)



鶴見大学司書・司書補講習  
主任教授

角田 裕之

司書・司書補講習の修了生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。この度、皆様が無事に講習を修了されたこと誠に慶び申し上げます。昨年度の司書講習は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から五つの選択科目をすべてオンライン授業としました。本年度はさらに四つの必修科目もオンライン授業に変更して対策を強化しました。オンライン授業は教室に集合する必要がないので密閉・密集・密接を完全に回避できるだけでなく、自宅からでも受講が可能。そのため通学の回数を減らし、感染リスクを下げ、効果もあります。そこで、オンライン授業を問題なく受けられるように、オンラインデマンド講習を開催しました。合わせて、授業で



国際図書館連盟のポスターセッション

も活用するコンピューターに慣れていただくために、パソコン初心者講習も開催しました。オンライン授業は如何でしたでしょうか。本講習で得た知識や技術は、図書館の職場ですぐに役立ちますので、存分に活用してください。さてここからは、最近の図書館関係情報をご案内します。まず、授業でも学んだ国際図書館連盟の活動についてです。三年間コロナ禍で対面の大会を見送っておりましたが、本年七月にアイルランドの首都ダブリンで開催されました。私は教育・研修分科会のセッションとポスターセッションに参加しました。同分科会は「図書館情報学教育プログラムのための国際図書館連盟ガイドライン」を提案し、その目的、対象、方法が解説され、七つの基礎知識エリア(社会情報、専門職の基礎、情報通信技術、研究・イノベーション、情報資源管理、情報プロフェッションのためのマネジメント、情報ニーズとユーザーサービス)が示されました。将来の世界各国における図書館情報学教育の指針となるでしょう。また、ポスターセッションは出



トリニティカレッジ・ダブリン旧図書館

版社や図書館関連団体・企業が出展している展示場の一区画にあり、発表者と来場者の情報交換で盛況でひととき賑わっていました。ポスターセッションの応募の際には、連盟のテーマである「啓発する、関わる、可能にする、つなげる」との関連性が審査され、百七十四点が採択、日本

からは私ともう一点が選ばれました。私のポスターは、「鶴見大学図書館と図書館情報学授業が連携し、仮想空間と連動した図書館を展示する新しい非来館者サービス:新型コロナウイルスによるパンデミックにおける継続的な図書館サービスの支援」で、文学部ドキュメンテーション学科と大学図書館が協力して実践したオンライン図書館サービスを発表しました。

つぎに、二つの図書館を紹介します。一つめはトリニティカレッジ・ダブリンの旧図書館です。ここには九世紀頃に制作された福音書「ケルズの書」が展示されており、同書は装飾文字と挿絵によって描かれた実に美しい一品でした。旧図書館のロングルームは十八世紀初頭に建築された二階建ての幻想的な書庫で、ジョージルーカスをはじめ多くの閲覧者がアイデアをインスパイアされたことで知られています。二つめは那須塩原市立図書館みるるです。壁面棚は足元から天井へと



那須塩原市立図書館みるる

続き、排架された資料は木の葉のごとく映り、ブラウジングは森林浴満喫の散策です。図書は紙から成り、頁は一葉とも呼ばれ、図書が自然に回帰したかのようです。静かに流れるバックグラウンドミュージックは、森の鼓動にも聞こえてきます。館内のカフェ・モリコネでは、那須町の森林ノ牧場で放牧飼育されているジャージー牛のミルクでつくられたソフトクリームが堪能できます。観光の際には地域の図書館に立ち寄られては如何でしょうか。最後になりましたが、受講生の皆様が、図書館や図書等に係る仕事に就かれ、さらにご活躍されますことを期待しております。



# すこし…ながーく…



青山学院大学 教授  
小田 光宏

この記事のタイトル、私が好きな言い回しの一つです。「…」に同じ語を当てはめて、「願い」を表すようにするのですが、そのときどきで、異なる言葉を入れて使い回しています。この元ネタですが、かつては、お酒好きにはすぐわかるものでした。しかし、現代では、ネット検索を上手にやれば別ですが、人の知識や記憶の中から引き出すのは難しいようです。その分、新鮮な響きをもたらす別の表現にすることができると思われます。受講生のみなさんでしたら、どのようなフレーズを創り出すでしょうか。

ここで、「勉めて」を入れてみたいと思います。「勉める」は、国語辞書によれば、「無理をしておこ

なう」といった語義が登場します。したがって、「無理をするのはすこしばかりでよいから、ながーくやっつてね」といったニュアンスになりそうです。生涯学習の考え方に通じそうな気配です。

ちなみに、「強」と組み合わせると、「勉強」とするとい起こすかもしれない。「学習」が主体的に行うという意味合いを感じさせるのに対し、「勉強」は誰かから促されて行うといった意識をもたらすこともあり得そうです。しかし、そうとばかりも言えません。用法からすると、今では「死語」の可能性が高いようですが、少し時代を遡れば、「奥さん、勉強しますよ！」という威勢のよい

一言を、商店の店先で耳にするのは日常でした。そう、「勉強」強いて勉める」ということだからです。お客さんのために無理をして行うのが、このやりとりにおける「勉強」なのです。もちろん商売の文脈ですから、無理をする内容は「値下げ」や「おまけ」といったこととなります。この例を考えると、「勉強」も「学習」と同じく、自分から主体的に行うことにならないででしょうか。上述の「誰かから促されて」という意識は、後付けのように思ってしまうのは、私だけでしょうか。

さて、「奥さん、勉強しますよ！」に話を戻します。「勉強」をさらに別の用語に置き換えて、同じ意味にしてみてください

はい、そうです。候補の一つは、「サービス」となります。実は、国語辞書をはじめとするいろいろな辞書類を改めて参照したところ、「勉める」の記入に、「誰かのために行う」といった解説を見つけた。「サービス」の本質である「利他的であること」が、「勉める」に共通しているのです。「ことばって、本当にいいもんですね」と、しばし感慨に浸りました。とは言うものの、「すこしサービスして、ながーくサービスして」では、あまりにも生硬そして冗長ですから、やめてくださいな。

最後に、もう一つ。「一夏会報」とはご縁がしばらくなかったと依頼の際にお聞きしたので、ハー

ドディスクの保存ファイルを確認したら、2004年以來でした。PDFとしてホームページにも掲載されていない時期の号に、「ことばを磨く」と題する一文を寄せました。やや気負いが感じられる文章から四十代の自分を見出し、鶴見大学司書講習との二十年以上にわたるお付き合いを振り返る機会となりました。受講生のみなさんが二か月近くに及ぶ長丁場であるのとは異なり、こちらとしては、一夏(ひとつ)の数日間という、ほんのわずかなお役目です。しかし、「図書館サービスの担当講師を始めたのが2001年からなので、蓄積される想い出、かなりのものとなります。「すこし」の積み重ねを、「ながーく」してきたのだな、と受けとめています。コロナ禍、そして、猛暑のもとで行われた2022年の司書講習でした。支えていただいた事務局ならびに大学関係者、そして、受講生のみなさん、ありがとうございました。



公共図書館と大学図書館の共通点 相違点の確認作業中(於 鶴見大学図書館)

# 難しい時代に、世界の片隅で「図書館愛」をつぶやく



筑波大学 講師  
松林 麻実子

受講生の皆さんが一夏会報をご覧になるのは、秋も深まってきた頃でしょうか。いつもとは違う濃密な一夏を過ごされた余韻も過ぎ去り、日常に戻られていく頃かと思えます。

さて、一か月余りにわたる講習、本当にお疲れ様でした。猛暑とコロナ禍とで一段と過ごしい、朝から晩まで授業を受けたということは、それ自体が「すごい」ことです。ここで根性論を唱えるつもりはありませんが、それでもなお、それぞれの授業の内容はもちらんのこと、志を同じくする者同士が一堂に会して集中的に学ぶという経験そのものが、受講生の皆さんにとつ

て何らかの糧になっていることを願います。

さて、少しだけ私の個人的な経験をお話させていただきますと、私は大学院を出て初めて担当した授業が、この鶴見大学の司書補講習でした。それ以来、なんと(恐ろしいことに)20年以上、「図書館サービスの基礎」を担当させていたでいます。文部科学省が定める「学ぶべき内容」は今も昔も大きくは変わっていませんので、そういう意味では毎年同じ内容を繰り返してお話すればよいはずですが、しかし、この数年、前年と同じ内容では不十分だと感じるが増えました。これは、私がこの歳になっていきなり授業に目覚めたわけ

ではなく、図書館を取り巻く環境が急激に変化していることによるのだと考えています。

今回の授業の中で、皆さんに「理想的な図書館サービスの方向性」について考えていただきました。ここでいう「理想的」とは、ご自身にとってしっくりくる、もしくは目指したいサービスや雰囲気という意味だというお話をしたところ、「(これまで通り)本を読みたい人に本を提供していくサービスに力を入れたい」というご意見が多く寄せられました。

識されてきました。これは、それ以前の公共図書館が利用者に寄り添う機関でなかったことへの反省から来たものとされていますが、この考え方の根底には「一般に流通している図書や雑誌などの資料は、信ずるに値する」という暗黙の了解があったように思います。『図書館の自由に関する宣言』で謳われる「図書館は資料収集の自由を有する」という考え方も、この暗黙の了解の上に成り立っているものなのではないのでしょうか。結果として、やや大雑把な表現にはなりませんが、「出版社が刊行している資料は信頼できる」と、それらと利用者とを上手くつなぐのが図書館の果たす

べき役割である」とする考え方が生み出されてきたように思います。しかし現在は、大変残念なことですが、真偽の判定が難しい、史実や科学的根拠に基づいていない言説が資料として流通する世の中になっていきます。「フェイクニュース(偽情報)」という語が一般的に使われるようになってしまいく経ちますが、これはいまや「ネットの世界」とどまらない問題です。すなわち、出版社が出している本でも信頼できるとは限らない状態であり、図書館もまた、無意識のうちに偽情報の流通に加担してしまいう危険性を持つているということなのです。そのような時代に、これまで「利用者が見たいもの」を提供する場所として機能してきた図書館は、そのままの存在でいてよいのでしょうか。

その真偽というところにも気を配りながら利用者に繋いでいくことを考える時期に来ているのではないかと思えます。もちろん、このことは現場ですでに議論され始めていますし、専門家ではない図書館員が真偽判定に責任を負えるのかどうかも簡単に答えが出るものではありません。私たちは、とても難しい時代に図書館と関わろうとしています。

私たちは、図書館に関わる者として、図書や雑誌といった形態にとどまらない多様な情報を、

でも、それでも、私は「図書館が好き」と言いたいし、気軽に行ける場所としての「図書館」にずっと存在し続けてほしいと思っています。そして、受講生の皆さんにも、「なにやらいろいろ大変そうだけど、でもやっぱり図書館が好きなんだよね」と思っただけのことを願っています。

私たちは、図書館に関わる者として、図書や雑誌といった形態にとどまらない多様な情報を、



受講生  
司書



### チムどんどんした夏の収穫

垣花 美樹子



転職し大好きな図書館で勤務することわずか3ヶ月。利用者側の思考から図書館のお仕事ってこんなに大変なんだと思いきなり、大変ついでに思い知りが吉日とちむどんどんしながら鶴見へやってきた。2ヶ月の司書講習の幕開けだ。最初はオンデマンド講義に不安の中、一人で悪戦苦闘しながらも聴講し、恐る恐る課題を提出。対面になるとホッとする一方、レポートに試験勉強にと休む暇なく追われた。先生方の講義では工夫を凝らし、映像などを交えながら時に面白おかしく、図書館の奥深さを教えていただいた。知らないことだらけの図書館はたくさんの方の可能性を秘めた場所だと気付かされた。

限され、すでに図書館で勤務している人、これから関わりたいと思っている人、いろんな立場や経験、考えを持った受講生が集い、もつともつと情報交換ができる場でもあったのにと、それだけでは残念で仕方ない。それでもやはり同じ志を持つ仲間がいて、途中できつくて挫けそうになっただけ、その度に励まされ助けられた。

んだと実践することで、一杯一杯に詰め込んだ頭の中の霧が晴れ、まだほんの少しだけ視野が、世界が拓けた。これから、実務の中で活かしていくことでますます図書館と司書としての魅力を見つけられそうだと、無事司書講習を終えた今、安堵と共に達成感でいっぱいだ。

最後にたくさんの方の図書館愛と知識を授けてくださった先生方、快適な環境を整えて下さった事務局の皆様、そして、温かく支えてくれた職場や家族に心から感謝いたします。いちゃりばちよーでー(出会えば兄弟)一期一会)出会えたご縁にありがとう。これからの私たちの活躍に乞うご期待。また、図書館でお会いしましょう。

受講生  
司書



### 日常に彩りを、図書館から

高橋 和真



満員電車で心を押つぶされまいと、特に目的もなく、六インチの灰色の世界に無理やり意識を向けるあなた。一度図書館へいらしてみてもいいでしょう。あなたの心に彩りを与える虹色の物語に出会えます。日常に疲れ果てて、無色透明な心でいることに安堵を覚えてしまっているあなた。

一度図書館に立ち寄ってみてはどうでしょう。鮮やかな詩があなたの心に色を取り戻してくれませんか。

群馬の片田舎から横浜に出てきた私は圧倒されてきました。立ち並ぶ高層ビルに休むことを知らないネオン。そして何より街を埋め尽くす人の海。将来、図書館に携わる仕事をするために絶対に資格を取ると決意してきただけなのに、その決意

受講生

司書補

大きな学び

笹子真里亜



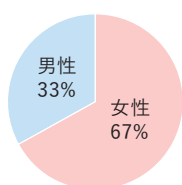
幼いころから本が好きで、縁あって現在の図書館で働かせていただくことになりました。実際には働く中で、今まで知らなかったレファレンス業務の存在を知り、ここまで多くの分野に渡って知識を広げられる仕事があるのかと驚き、ますます図書館業務が好きになりました。また、市民に無料サービスを提供するシステムの意味や、社会から求められる意義、図書館の存在によって出版業界や著者に及ぼす影響についても疑問が湧き上がるようになりました。

今後長く図書館に関わり、自信をもって利用者サービスを提供するために司書の資格と知識は必須だと考え、今回の受講を決めました。開講日当日、ひとつめの講義は「生涯学習論」

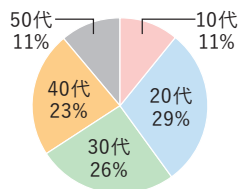
で、講師の方のお話は、ただぼろっとしていた私の頭に大きな衝撃を与えました。今まで生涯学習とは趣味の一環であり、しなくても良いものという認識でしたが、そうではないということを知り、なぜ今学びが求められているのか、そしてそれを強要できない難しさを痛感しました。本来は半年以上の時間を費やして学ぶべきことを2日間に凝縮したので、きっと教えていただいたことと教えるに過ぎないでしょう。しかし、ただ何となく生きていた私の意識や価値観を変えるには十分な力がありました。そのほかの講義でも、今まで自己流で解釈していたことがいかに間違っていたのか、また図書館が担っている役割の重大さを考えさせられる内容で、資格を取得すること以上に大切な学びを得たと何度も実感することができました。学んだことを無駄にしないためにも、これからも学びを通して成長し続け、働いている図書館に活用していきたいと思っています。

令和4年度 司書補講習 アンケート集計結果 (回答数/受講数=24名/33名)

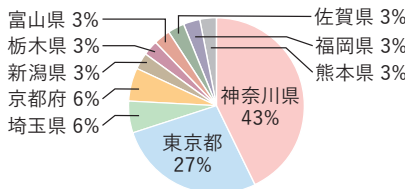
▼男女別データ



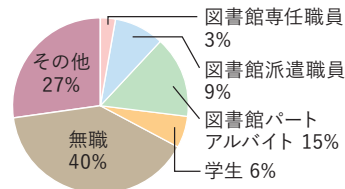
▼年齢別データ



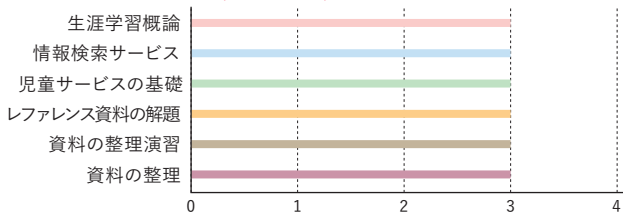
▼出身県別データ



▼職業別データ



▼印象に残った科目(複数回答)



感想

【生涯学習概論】

司書としてだけでなく、人生の中で知っておくべき内容だと感じました。価値観の変わる授業内容だと思いましたが、一番最初の授業で気付いたら終わってしまった感覚があったので、自分で学びを深めていきたいです。

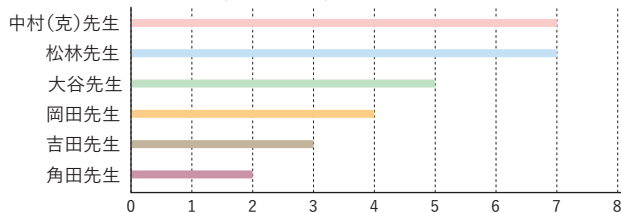
【情報検索サービス】

OAを使いとても分かり易く講義いただきました。詰め込み過ぎず、一つ一つの操作をしっかりと確実にできる様に進めていただけたので良かったです。

【児童サービスの基礎】

児童サービスについて初めての学びであり、普段、絵本を読む機会も無い中、たくさんの絵本を教えていただき学び多き時間でした。大人も絵本から学ぶ事の大切さを教えていただきました。今度、図書館に行って絵本を借りて色々読んでみようと思います。皆さんの読み聞かせを聞かせていただき、実際に読み聞かせの大切なポイントがとても分かり易かったです。

▼印象に残った講師(複数回答)



感想

【中村(克)先生】

資料の整理についてより詳しく聞けることで理解が深まった。また講義の中で雑談を交えて話をたくさんしてくださり、変に気負わず授業を受けられた。1つひとつ丁寧に演習をして頂けたので、ありがたかったです。たまに始まる小話がとてもツボで沢山笑わせて頂きました。お人柄が最高でした。

【松林先生】

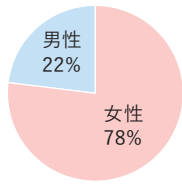
資料がわかりやすくまとめられ、講義で得られる情報も多かった。とても明確で分かりやすく歴史からサービスまで学べました。身近な公共図書館の話題が多く参考になりました。

【大谷先生】

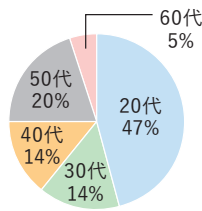
ポイントを押さえたレジュメを配布してくれたので、講義に集中できたので良かったです。皆の質問も丁寧に拾ってくれて有難かったです。

# 令和4年度 司書講習 アンケート集計結果 (回答数/受講数=108名/127名)

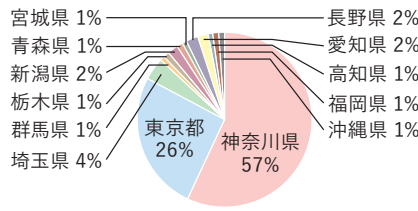
▼男女別データ



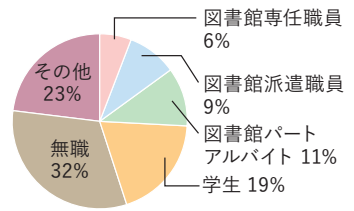
▼年齢別データ



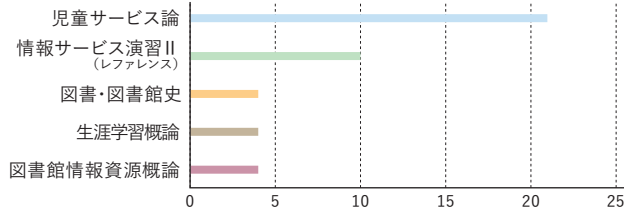
▼出身県別データ



▼職業別データ



▼印象に残った科目(複数回答)



感想

【児童サービス論】

図書館で働いたことがないので、実際に図書館で行われていることを対集団で取り組めたことが、とてもよい経験となった。コロナで受講生同士の関係ができないままだったが、児童サービス論で、各自が壇上に立って読みみかせor語りorブクトークをしたことにより、話をするきっかけができました。みなさん、静かに受講していましたが、パフォーマンスはそれぞれ大胆で、個性的で、急に仲良くなれた気がしました。

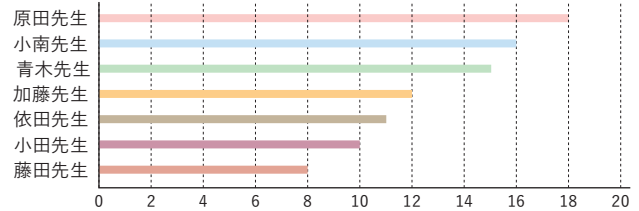
【情報サービス演習II (レファレンス)】

色々難しいこともたくさんありましたが、図書館の実習は総まとめの意味もあり、充実した演習でした。図書館員としてパワーアップして頑張りたいと思います。先生方ありがとうございました。

【図書・図書館史】

古代の文字の起源から教えて頂いて、興味がわいた授業でした。これからも少し掘り下げて勉強をしていきたいと思います。

▼印象に残った講師(複数回答)



感想

【原田先生】

・レベルの高い授業でしたが色々な検索方法を紹介していただき、今後、活用することができ、参考になりました。  
・教え方もわかりやすくていねいで非常にわかりやすかったです。気さくに声をかけてくださり、質問もしやすかったです。

【小南先生】

・大変密度が濃く大変でしたが、情報資源に関してわかりやすくまとめてくださり、後の授業の役に立ちました。  
・すぐわかりやすくて、印象に残りました。

【青木先生】

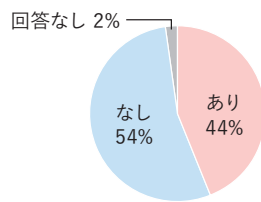
・穏やかな人柄で、色々なアドバイスをいただきました。資料検索の際のコメントはとても勉強になりました。

【加藤先生】

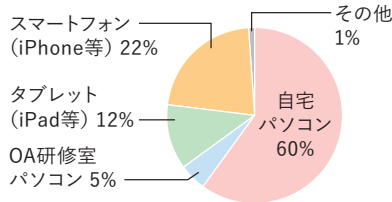
・図書館の未来や夢のあるお話を語られていて、わくわくしました。

## オンデマンド授業について

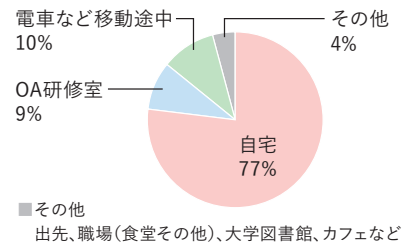
▼講習以前のオンライン授業経験



▼受講したときのツール



▼受講の視聴場所



配信期間について

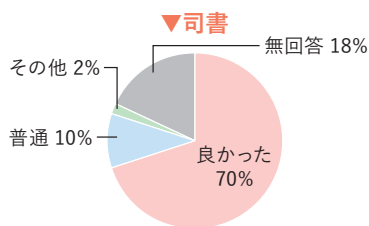
- ちょうど良いと思いました。約1週間だと詰め込むことができるし、頭に入りました。
- 乙群の後半科目、あと2、3日欲しいとおもったが、配信期間はおおむね妥当だと思います。
- 教室で行われる授業とのかねあいを考えて、期間や日程を組んで下さっていると感じました。
- 対面授業と日程が重なっているときが、課題も重なって大変でした。
- もう少し長かったらいいなと思うときが何度かありました。
- ある程度余裕のある配信期間だった。ただ、授業によっては課題の量が多く、期限内に終わるか心配になった。
- 課題の数が多いので、配信期間が短いものもあった。
- 後半の乙群の2つのオンデマンド授業は、対面と同時並行で行われていたが、期間を長くにとってあったので大変助かった。

オンデマンド授業の感想

- 自宅で、自分の好きな時間にできるのでとても集中できた。
- 1時間以上かけて通っていたので、感染リスク等もなく気が楽だった。
- 各先生工夫をこらされていて、対面と同等レベルで授業できていると思います。今後は、Googleクラスルームなどを使い、少人数でのディスカッションやオンラインでの小テストなど行えるようになってほしいと思います。
- オンデマンド授業は、授業内容によっては何度も見ることができてよかった。講習会に参加している人たちとの交流がないのは残念だった。
- 自分のペースで取り組めたので良かった。課題についてもオンデマンド1時間視聴の後ということで厳しい部分もありましたが、何とかこなせました。映像も含まれており、通常の対面の時よりも分かりやすい部分もあり助かりました。
- 質問にも頻繁に応えてくださったので、授業に関しては不安はなかった。

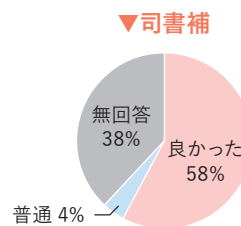


## 令和4年度 特別講演会について アンケート集計結果



### 感想

- 「人々の暮らしが街の一部を構成するものとしての図書館」という考えをお持ちである事が伝わってきた。他の機関とも協力しながら街とそこに住む人々の暮らしを作っていくという意識が大切であると考えた。
- 利用者が来るのをまっているだけではなく、攻めの姿勢が大切ということが分かった。特にペンギンの企画が興味をそそったため見にいきたかったと感じた。
- 行政との関係をもとに連携して様々な企画をフットワーク軽く行っている様子は、これからの図書館への可能性が感じられ勇気づけられた。
- 今後の図書館の在り方、および図書館員の在り方に対する意識が変わった。



### 感想

- 今の図書館の現場について課題、展望が聞けて面白かったです。市の施策に図書館がどのようにコミットして行くか、他部局とどう連携するべきか考えて行こうと思います。様々な企画展示の例と地域を見て実施するべきと改めて感じました。
- 具体的な事例を絡めながら図書館だけではなく他との協力について分かりやすく教えていただいた。
- 現場で実際に体感した事として、医療・健康についてカウンターで質問する利用者様はとても勇気を出していると思うというお話が心に響きました。レファレンスの際は真摯にやり取りをしようと思いました。貴重な話をしていただきありがとうございました。

### 司書講習生の感想

- とってもきつかった！2ヵ月だからがんばろう！と思っていたけれど、途中で何回かあきらめようともしていましたが、それ以上にさまざまな年齢の方のつながりもでき、司書講習以外のこともたくさん勉強になりました。今思うと2ヵ月間とても長くてたのしかったです。
- 講習期間の前半に座学を行い、そこで学んだことを活かして後半の実習に入っていくというプログラム構成が、とても良いと感じた。コロナ禍での開催という制限の中だったが、何とか講習生同士の交流を促進させようと、先生方が工夫してくれたのがありがたかったと思う。
- 二ヶ月間の司書講習は濃密で、とてもハードなスケジュールでしたが、終わってみるとあとという間だったと感じました。図書館や司書については知らないことばかりで、毎日が発見と刺激に満ちていたと思います。休みが少なく、体力的にたいへんではありましたが、受講して良かったです。
- 講習を受けて沢山のことを学べ受講して良かったと思っています。対面授業とオンライン授業が組み合わせられたスタイルは、日常が忙しい者にとってはとても良かったです。久しぶりに学ぶ喜びを味わえ充実した2ヶ月でした。
- オンライン授業は通学時間がなく、とても便利でありがたかったです。ただ、やはり対面授業で先生のお人柄にふれ、図書館学についての情熱を直接感じる講義はもっと良かったです。質問もすぐできて疑問をすぐに解消できました。

### 司書補講習生の感想

- この講習を受けようと思ったのは、毎日仕事をして家に帰って何も成長のない日常が嫌で何かひとつでも変わりがかった気持ちもある。色々な人に協力してもらい仕事を休んで受講した。内容に置いていかれて何も分からなかったらどうしよう、と頭の中が不安でいっぱいだった。それが楽しく変わったのが生涯学習の授業からだ。勉強するのは楽しいことなのだとことを思い出させてくれた。この授業を受けられただけでも、本当にこの講座を受けて良かったと言える。他にもレファレンスの実習をした授業は学びが多かった。どんなレファレンスツールがあるのか授業で学んで理解していたはずなのに、いざ、レファレンスと向き合うと頭が真っ白になった。先生の指導もいただいて答えにたどりつけたときはとても嬉しかった。また、経験がいかに重要かがわかる授業だった。全体を通して、楽しめる授業ばかりだったという感想をいただいた。司書補講習を受けて、やったことのないことに挑戦することの大切さ、面白さを学んだ。怖がらずに様々な世界に足を踏み入れて、もっと見聞を広げたいと思う。新しいことに挑戦するのが苦手な私にとって、本当に貴重な体験になった。司書補として経験を積み、今度は司書講習を受講するためにここへ来たいと思う。
- 新しい事を始めるということが、こんなに楽しい事だったということ、久しぶりに思い出しました。その機会を与えて頂いたことに感謝します。
- 司書補講習を受講させていただきありがとうございました。最初の1週間は体力的にも6週間の受講を乗り切れるのかと不安にもなりましたが、コロナ禍であり話ができない状況下の中でも、周りの受講生の方々に支えていただきながら、無事に最終日を迎えられたことに感謝しています。ご講義をしてくださった先生方は図書館の現場に入っても困らないようにと講義内容を組んでくださり、数ある様々なタイプの図書館で活用できるようなお話を多く取り入れてくださっていたように思います。

### 司書・司書補講習の歩み

鶴見大学の司書・司書補講習は、昭和29年(1954)に開講しました。その間、著名な多くの先生方のご指導の下、優秀な修了生を輩出し、本学の講習は成長してまいりました。そして、開設時の昭和29年に講習生の会として「一夏会」が発足したのがこの会報の由来となっております。

平成9年には大学会館での講習がスタートし、JR鶴見駅から徒歩3分という恵まれた環境で講習を行うことができるようになりました。約60台のパソコンからなるOA研修室、86万冊にも及ぶ質の高い蔵書群を所蔵しコンピュータを駆使した高度な情報提供機能を持っている本学図書館の使用など、時代のニーズにふさわしい講習を行っております。また令和3年はコロナ禍での開催となり、オンデマンド授業を取り入れました。令和4年もまたコロナが終息することなく、オンデマンド授業を拡大しての開催となりました。

本学司書・司書補講習は、これらの歴史と数多くの優秀な修了生を誇りに今後ますますの発展を期して努力してまいります。

### 司書・司書補講習受講生の皆様へ

アンケートにご協力頂きましてありがとうございました。皆様のご意見を参考に、今後もより良い講習にしてゆきたいと思っております。また、この「一夏会報」を刊行するにあたり、原稿をご執筆いただきました先生並びに受講生の方々に深く感謝申し上げます。

今年も昨年に引き続きコロナ禍での開催となり、受講生の皆様には、多くのご不便をおかけし、またご協力をいただきながら閉講式を迎えることができましたこと、事務員一同ほっとしております。ありがとうございました。この密度濃い一夏の講習を乗り越えられたことは、皆様にとっても未来への一財産となったことと思います。今後のご活躍を楽しみに応援しております。今夏は本当に暑い夏でした。2ヶ月間お疲れ様でした。